



主張

校長の役割を考える

～新春座談会に参加して～

細谷 直樹

あけましておめでとうございます。令和七年度の夏は、猛暑日や気温四〇℃以上の地点数の記録を更新するなど、観測史上最も暑い夏となりました。このような暑さの影響かどうか分かりませんが、全国広範囲で線状降水帯が繰り返し発生し、記録的な大雨となり、土砂災害や浸水害による甚大な被害も生じています。近年は、五〇年、一〇〇年に一度という災害が、毎年のように発生していますし、これまで災害が少なかった地域での発生も増えていきます。学校を預かる校長として、生徒の命を守るため、防災体制や防災教育の充実に取り組んでいかなければならないと強く感じています。

さて、今回、全日中の新春座談会に参加させていただきました。内容については本誌に掲載されていますが、この中で、文部科学省初等中等教育局教育課程課の武藤久慶課長をはじめ、全日中の会長、副会長の皆様と直接話をする機会を得ました。

我々校長は、学校を預かる最高責任者として、常に判断することを求められています。近年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や国際情勢の不安定化、生成AIの登場等、予測困難な事象が次々と生じています。また、学校を取り巻く社会の変化の激しさは年々著しくなっており、働き方改革や部活動の地域展開など、以前の当たり前が違う価値観へと転じたり、想定を超える災害や事故等が突如発生したり、更には、教育のデジタル



化の加速度的進展など、まさに経験したことのない出来事が起きています。これらの出来事に、日々向き合い何が正解か分からない、あるいは見えづらい中、我々校長は、常に判断することを求められています。だからこそ、校長は、時代を見据え、未来を見据え幅広い視野をもって学校経営に取り組んでいかなければならないと考えています。

そのような我々にとって、全日中などの研究協議会に参加することは、他県の取組や状況に直接触れ、意見を交換することで、自分の視野を広げたり、新たな考えを獲得できたりする大変有意義な場であると考えています。今回参加させていただいた新春座談会も、大いに刺激になりました。我々校長は、常に視野を広げ、様々な情報を収集し、判断の材料を増やしていかなければならないし、新たな考えを獲得していかなければなりません。様々な大会に参加することや情報を仕入れることは、時間も労力も必要ではありませんが、それでも、この変化の激しい時代に、生徒や先生方を導いていくことを考えると、それをやることはできません。今、次期学習指導要領の作成に向け論点が整理され、各ワーキンググループが活発に議論を進めています。これらにも注目し、積極的に情報を得なければならぬと考えています。

最近では、ややもすると「働き方改革」の名の下に、すぐに結果の出ない取組や本来は大事にしなければならぬことに時間を割かない風潮を感じる場合があります。一見無駄に見えることでも、すぐに結果が見えないことの中にも、教育に携わる我々が大切にしなければならぬものが隠されていたりします。このことを忘れずに、時間対効果や費用対効果だけにとらわれない、本質を見る目を大切にしながら、積極的に情報を収集し、判断の幅を広くしていきたいものだと考えています。

(全日中副会長・山形市立第一中学校長)